

ビバハウス便りNO.88 明けましておめでとうございます

2013年 元旦

ビバハウス責任者 安達 俊子

新年にあたり、旧年中の変わらぬご支援に心より感謝いたします。どうぞ本年もよろしくお願い申し上げます。お陰様でビバハウスは昨年の開設記念日9月1日で、満12周年を迎える事が出来ました。これもひとえに、皆様の物心両面にわたる御支援の賜物と改めて心より感謝致します。

昨年1年も俊子、尚男共に任務に何とか耐える事が出来ましたが、年には勝てないなど思わざるを得ないことも、だんだん多くなって来た気もしない訳ではありません。昨年は若者自立塾の後継組織の厚労省の緊急人材育成・就労支援『基金訓練』の終了を受けて、新たに開始された、『求職者支援制度』（通所型）を活用し、ビバハウス独自の『農業実践科』（3ヶ月間）を開講し、現在すでに第3期を迎えています。希望者にはビバの合宿生活も選択できますので、民主党政権の事業仕分けで廃止された『合宿型』を部分的ですが復活させることが出来ました。私たちは、特別な困難を持つ若者たちのために絶対に必要な、『合宿型』の完全復活をこれからも国、厚労省に対して強く要求し続けます。

昨年のご挨拶で触れた『樹木葬』は当初予定した農地の転用に数年を要するため、新たにビバから車で10分ほどのところの広い山林を入手しました。雪が解けたら、若者たちと、新たな構想で『年寄り・若者元氣村』づくりに取り組みます。草刈、伐採、お花畑作り、さまざまな小果樹（ブルーベリー、アロニアなど）も植える予定です。条件が整い次第『樹木葬墓苑』にも着手する計画です。

昨年のビバにとって最大の喜びは、11月1日付で、ビバ創設後3年目に、私になれない全員分の料理に苦勞していた時に、自分の保母の仕事を投げ打って静岡から応援に駆けつけてくれ、1年間ボランティアをしてくれた、私が北星で担任をした水野紀子さんを正規スタッフとして迎えることが出来たことです。ビバ創設期の精神を私たちと共有してくれた紀子さんの参加で、現在残念ながら私の健康が許さず、私たちが一緒に生活できない中で、若者全員が暮らしている入舟宿舎にも新しい『自治の萌芽』が芽生えつつあるように、すでに掛け替えのない大切な役割を果たしてくれています。

新年の目標として、ビバハウスの原点に立ち返り、『若者を育て、地域を活かし、社会を変える！』活動を志を同じくする大勢の皆さんと力を合わせ全力で取り組みます。

どうぞ本年も変わらぬご支援を下さいますよう重ねて御願いし、これまでのご協力への感謝と近況のご報告、新年への決意とさせていただきます。